

花壇並に花壇用草花年中行事

—(十一月)—

日比谷公園花壇掛 富 本 光 郎

苗床の霜除

牡丹芍薬の植付

今月中旬頃より次第に寒氣も加はり、降霜も激しくなつてくるので、秋蒔苗其他各種宿根草など温室、フレームに入れるもの以外は、霜除を造つてやらなければならぬ。

牡丹と芍薬とは秋を除いては絶対に植替の出来ないものにて、これは先月書かなければならぬものであつたが今月に後れて筆者として誠に申譯ない次第である。

東京附近を標準とする模様花壇用のものなどは、耐寒性の強いものでも出来るだけ霜除をしてやるに越したことはない。それは霜除下で育てた方が株の大きがよく揃ふし、又幾分開花も早く、翌春花壇植付に當つて極めて使い易いからである。

牡丹 牡丹はどういふものか一般に栽培困難と思はれて手を出す人が少い様であるが決してそういふものではなく左記の如き點に注意すれば極めて容易に培養出来るもので今植込んでおけば翌春よく開花し、二三年の後には立派な木となつてくれるものである。

霜除の方法は簡單で寫眞の如く、苗床の南側を開け外三方はふさぐ様にするので丸太を以て柱を立て竹を渡し、藓簧、苔、筵、菰等の類で屋根形に圍つてやるのである。

植付適期 十月中旬より十一月下旬迄の間。
植付場所 成るべく強風の當らぬ、日當りのよい所、何れかと云へば朝日をよく受けて強い西日を受けぬ様な

即ち東向又は東南向の場所。

適質土 多少粘質で排水のよい肥沃な土壤、列へば砂を相當含んだ粘質壤土。

植付方法 接木後三年目位のものを求め、株間は二尺五寸位とし、根はなるべく折つたり傷けぬ様にして、砧木と穂との接目が一―二寸埋まる位の深さに植付る。植付個所は豫め深さ、巾共一尺二―三寸位の圓い孔を掘り底に腐つた堆肥油粕、木灰などを入れそれに少量の土を加へてよく掻き混ぜ、その上に根を据える様にする。

雜 除 植付は當初の冬は根際に糞、厩肥の如きものを敷くとか、或は出来るならば糞、菰等にて木全體包んでおく。

芍薬 牡丹よりは、ずつと栽培もやさしく又手敷を要さな



いもので、植付時期、場所、方法、肥料等大體牡丹に準じてよいのであるが、只牡丹よりも幾分軽い土を好むもので砂質壤土が最適である。

又肥料は馬糞の様な熱性のものを喜ぶものであるからかゝる性質のものを多量混じてやる方がよい。

近年は在來の日本種の外に花の豐饒な洋種のもの盛に輸入され可成栽培せられてゐる。

其他の作業

一、秋植球根類の植え後れたものは今月中に必ず植込をする。

一、寒さの烈しくなるに連れ模様花壇にも、境栽花壇にも枯れたり傷んだりするものが日々多くなつてくるから、花壇を見苦しくない様、採取、刈込、等其種類々々により夫々適當に整理しておく。

一、牡丹の剪定整枝を中下旬頃に行はなければならない。